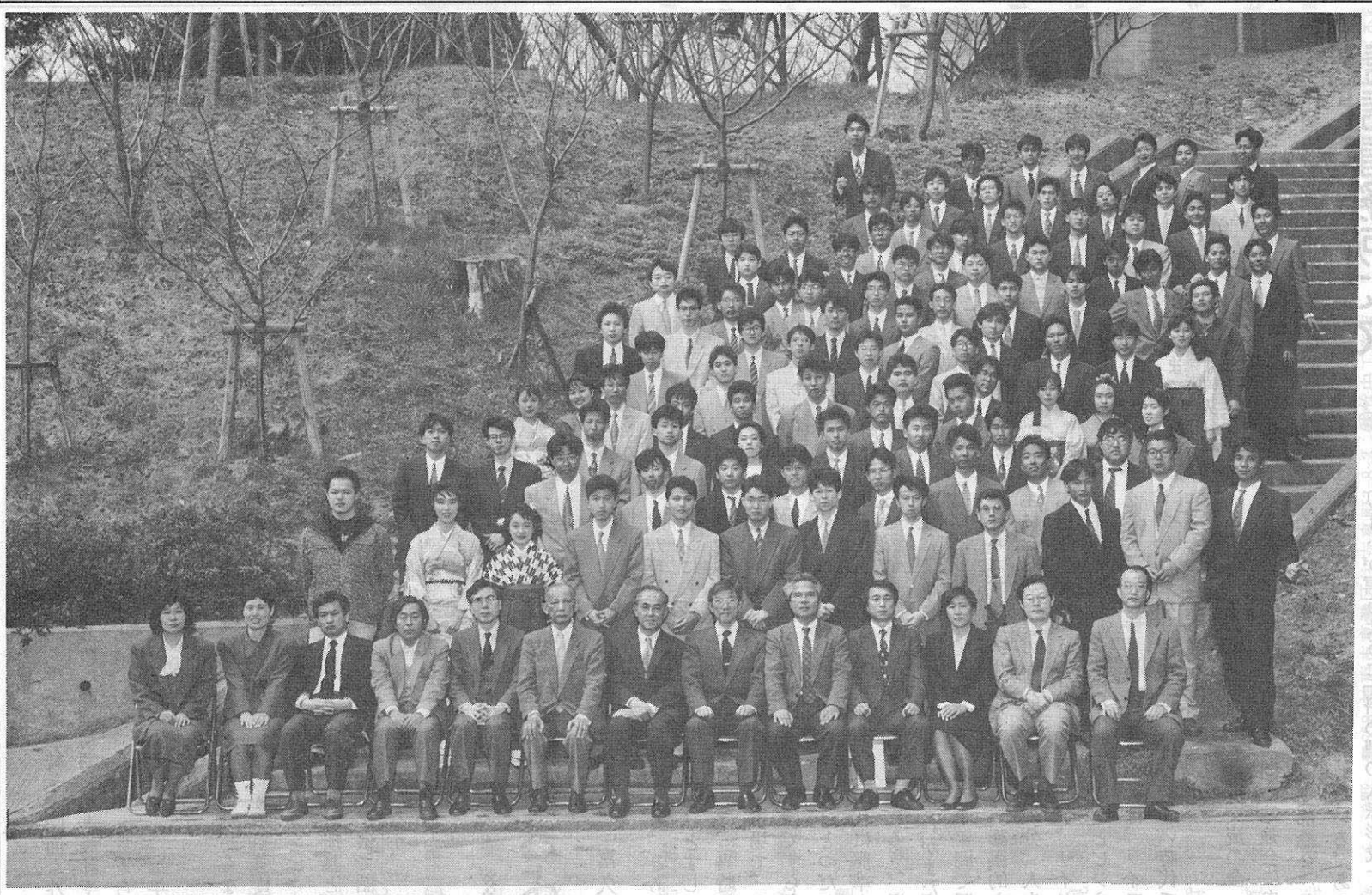
千里山建築会会報

第 4 号 1991年 7 月 1 日
千 里 山 建 築 会
〒564 吹田市山手町3-3-35
関西大学建築学科内
TEL06-388-1121 内線3768・5892



第21期 学部卒業生 平成3年3月20日(工学部学舎前)

卒業生105名 巣立つ
(新会員を迎えて)

新会員の皆様へ

会長 上田 哲夫

会員の皆様方にはお元気でご活躍のことと存じます。今年も千里山建築会会報第四号をお手元にお届けできる運びとなりました。

第三号は総会が開催された直後の発行でもあり総会関係の記事が中心となりましたが、本号では建築学教室の状況や、会員の方からのご寄稿を多数掲載しております。また、新卒業生の名簿を作成・掲載し、昨年発行された同窓会名簿の追録としていただけるようにいたしました。

さて、関西大学工学部建築学科は今春で創設二五周年目を迎え、この三月二十日には第二一期の学部生一〇五名が巣立ち、卒業生は総数二、四〇〇名を超えるに至りました。また、大学院でも十一名が修士課程を修了し、総数一七〇名となりました。

この度卒業し、新たに千里山建築会の会員となられた皆様に、心からお祝いを申し上げると共に、これからは自らの言動に責任をもつことのできる、信頼される社会人になっていただきたいと思います。

皆様方は、就職戦線においては戦後最良といわれる好景気に支えられて、七月の時点で既に八割以上が内定または内内定をもらっているという極めて順調な状況であったと聞いています。しかし、いざ入社してみれば厳しい現実がそこにあることを痛感するはずです。そんなとき、ほとんどの職場にはこれまで苦難の中で道を開いて来られた先輩方がおられると思います。積極的にアプローチしてください。同時にまた、これから後輩へ道を開いていくのも皆様方の務めであることを忘れないでいただきたい。

本紙に掲載しております集合写真は、三月二十日の卒業式の後に撮影されたものですが、新卒業生の皆様方には焼き増しをしてお送りすることにしております。卒業生集合写真撮影は千里山建築会の事業として、建築学教室のご協力のもと、これから毎年続けて行くことに先般の幹事会で決定いたしました。

幹事会では現在、千里山建築会を楽しく魅力のあるものにするための方策を模索しております。会員の皆様方、特に新会員の方の積極的な会の運営への参加をお願いして筆を置くことにいたします。

会員全員で千里山建築会を育てよう

幹事会・教室代表教授 山肩 邦男

千里山学舎の四月下旬、もう桜は散り終えて、つつじが満開に近い季節。この約ひと月の間に、当建築学科は一〇五名の卒業生(二一期生)を送り出し、そして一二六名の新入生を迎えた。新入生のうち二七名は女子学生で、近年平均の約四倍。お蔭で、一段と華やいだ感じとなった。……教室の近況をお知らせしよう。野口先生が、平成三年度の在外研究でオーストラリアのニューサウスウェルズ大学に一年間留学されることになり、三月末に出発された。また鈴木先生は四月より教養の情報処理教室に転出された。同教室の教学陣補強のためである。このほか、昨年十月浅野先生が学部長代理に就任されて、執行部でご活躍中である。そして、本年度の教室主任は荒木先生に、就職担当は八尾・川道両先生に決まった。諸先生方、すべてお元気である。……このようにして、今年の新学期がスタートしたところである。

さて、今回の会報では、建築学教室の代表として、千里山建築会の幹事会に顧問格で参加している私から、一言ご報告することとなった。昨年の総会の折にお話したことであるが、率直のところ、従来建築学教室は千里山建築会に対して必ずしも協力的ではなかった。それは、同窓会は本来卒業生が自主的に運営活動する組織だという認識であったからだと思う。しかし、発足後の数年間は幹事会が頑張って活躍して頂いたものの、運営資金の不足、幹事の人々のエネルギー消耗・報われない疲労感などが次第に深刻となって、遂に機能しない組織になってしまったという経緯があった。

二年余り前のこと、教室会議で同窓会の実情が問題となって、「二千名を超すという集団がてんでバラバラで、先輩後輩のつながりも判っていないという現実は、非常に遺憾だ。役員がやる気になれるよう、教室が積極的にバックアップしようじゃないか」ということになった。

再開された幹事会は、毎月一回夜の七時から十時まで、教室の会議室で行われた。役員諸君が各職場の仕事を終えてからの出席であるにもかかわらず、毎回約二十名の参加であって、熱のこもった会議であった。同窓会を立派なものにしよう、二度と中断させてはならないという気持からの参集で、全くのボランティア精神でなければできない仕事と感じた次第。特に在教室の卒業生である若い先生方には、仕事の実践面で大変なロードをおかけした。お蔭で、昨年の総会は大成功を収め、立派な名簿も発行されて、同窓会が着実に再出発できたことを、会員諸君と共に慶びたい。

同じ学舎を巣立った卒業生が互いに親睦を深め、先輩後輩が共に力を貸し合うという連携の輪が同窓会だと思う。役員の堅実かつ永続的な運営の努力が必要であるが、会員諸君の温かい協力があってこそ、役員の大きな励みとなるのである。会員一人一人が、自分達も同窓会の一員だという認識をもって、千里山建築会を育ててほしいと念ずる次第である。

近況報告

教養情報処理教室 専任講師 鈴木 三四郎

平成三年四月より、工学部建築学科から同教養情報処理教室へ移籍することになりました。昭和四七年に卒業して以来二十年近くになります。学部在籍中には、建築学科教授浅野幸一郎先生の下で、常時微動の観測および電子計算機使用の手ほどきを受けました。当時の実験装置については非常に重量のある計測器を、解析には現在のパソコンの性能以下であった第二世代の電子計算機を使用し、大変苦労をした思いがあります。しかし、このことが私の人生に大きく関わりがあるとは夢にも思いませんでした。

昭和六十年度と六十三年に、それぞれ一ヶ年の国内研究員制度の利用と学位の取得の機会、更にこの度の移籍という、教室から多大な配慮を頂戴しました。私の人生の中でも、この五年間は大きな変革であったと言えましょう。

最近は、大阪市内およびその周辺の地震観測を開始し、得られた地震記録波形の解析的処理、更に地震動のシミュレーションなど電子計算機を中心とした研究を手懸けており、これを情報処理の分野に反映するつもりです。また、建築学教室のご好意により、引き続き卒業研究にも携わらせて頂いています。最後に、ここまでご指導下さった浅野先生始め教室の先生と職員の方々、更に研究を共にした卒業生に感謝申し上げます。

(昭和四七年卒第二期)

特集 就職して1年・10年・20年

社会人として多くを学ぶ

㈱熊谷組　守山芳孝

月日がたつのは早いもので、大学を卒業して、はや一年がたちました。社会人の一員となり、学生時代の比較的のんびりとした生活とは裏腹に、毎日朝早く、ねむたい眼をこすりながら出勤しております。

私は今現場に勤務しております。そのため、最初は学校で習ったことのないような現場用語が出てきて、職人さんに聞かれても何を言っているのかさっぱり分からず、諸先輩方に聞いて回ったり、また本を買ってきて調べたりと大変でした。しかしながら、構造的にこれはもつかどうかなど意見を聞かれたりもし、大学で学んだものを実際に生かせる機会もありました。

社会人になって学生時代と違う点といえば、人間関係のつきあいが幅広くなったということです。学生時代のように一人だけである程度何でも出来るというわけにはいかず、一つの仕事を行うにあたって、さまざまな人間がかかわりあっていることを知りました。また、学生時代のように受け身型の立場ではなく、仕事を進めていく上での自分なりの考えというものを積極的に主張しなければならないことも学びました。

しかし、学生時代で学んだことを実際に現場で確かめることができるのは一種の楽しみでもあり、これがまさに勉強であると思います。また一つの物を完成させた時の喜びは何ものにもかえがたいものであり、当現場は完成まであと一年程ありますが、その喜びが実るまで明日もまた一日頑張っていきたいと思います。入社一年目を振り返って。

（平成二年卒第二〇期）

設計事務所にて

アーキテクト5　永田祐一

都知事選騒動も一段落し、桜の花も雨に漏れる四月の今日この頃、慌ただしかったこの一年の疲れがたまっていることを実感している。

一年前大きな期待？とともに関東のいわゆるアトリエ事務所で社会人としての一歩を踏み出した私だが、建築設計アトリエは、はたして二一世紀まで生き残れるのかと疑問に思うようになった。慢性の人手不足が続き、図面も外注。若い所員がやるのは計画初期の基本設計や構想ばかりで、仕事はいつまでたっても覚えられない。給料も安い。そしてやめていく。毎年同じことの繰り返しである。

私の事務所だけの問題なのかは分からないが、そのための組織づくりとして、時短や所員の賃上げ、福利厚生の充実や新技術（コンピューター等）の導入が大切であるし、また所長と所員の精神的ギャップを無くし、同じ土俵で話し合えるようにしていくことが必要だろう。

（平成二年卒第二〇期）

人生を二倍に生きよう

㈱多田建設　団原富久壮

私が卒業して、まる十二年になる。とあるゼネコンに入社して以来、積算業務ひとすじで課長補佐の役職に赴いている。思えば、当時は就職難の時期であった。今は売り手市場で、私など就職に苦労した人間にとって奇妙ですらある。時代の趨勢に対応して流れるのもひとつだが、真理を見つめ、そして来るべき時代に照準を合わせ、全うする人生もまたひとつだろう。過去、人生は「ひと山」の時代であり、それがまた「美徳」とも思われてきたが、この五十年間で四十年から八十年の人生になった。つい膨張的な人生になりがちなのが人間だが、その分、人生を二倍生きるというのはどうだろうか。サイドビジネスもいいし、「ふた山」「み山」とビジネスを変えていく手もある。これからは、ライフワークをしっかり持たなければならない時代ではないだろうか。

このようなことで私は、異業種交流の会「秋津会」のメンバーとして月一回の勉強会に参加したり、大学関連行事「校友会支部総会」などに出来るだけ出席するようにしている。あるエリートが言うように「斜め型の人脈形成」と「情報ネットワーク」に力を入れている。三十代で名刺を配って基礎を作り、四十代で実らせ、五十代でまず第一の収穫をするという大ざっぱなライフワークである。

学生時代を顧みて、部活動「建築研究会、関建連、全建連」での人間形成が、いかに実社会に於て重要であったかーと思うこの頃である。

（昭和五四年卒第九期）

……建築も女性の時代？……平成３年度新入生の女性陣

事務所開設したてのホヤホヤ

和泉建築設計室　和泉照二

関西大学工学部建築学科の先輩・後輩の皆様、特に五三年の卒業生の皆様へ事務所開設の近況報告を致します。

「どないしてはりまんねん？仕事はどうでっか？忙しいでっか？えろう、儲かってはるのと違いまっか？」

「仕事は量よりも質や！」と立派なことを言ってる事務所も多いのに、「量も」考えずにはいられない状況で、イッチョマエに、知らぬ顔しているのです。

巷では、一昨年から続いた好景気で数多くの個人の建築設計事務所が、雨後のタケノコの如く開設したと聞きおよんでおります。御多分に漏れず、私の事務所もその内の一つのようです。業界は今世紀最後といわれる好景気に支えられ高収益をあげ、未だその余韻が醒めやらぬ状況のようですが、私の事務所は二月六日に開設したばかりの〝ホヤホヤ〟で、現時点ではなかなか思うように事が運ばず、事務所の形態を整えることに奔走しております。

今頃から、設計事務所としての機能や形態を整えても、事業が回転する頃には既に景気も下降線を辿っているのではないかと気掛かりな今日この頃です。

私の事務所と同様の雨後のタケノコ建築設計事務所の皆さん、タケノコの成長過程はご存じでしょうか？太いタケノコは幹の太い背の高い立派な竹に育つのですが、細いタケノコは地上に出てからも太くなることはないのです。このことからも判るように、地上に顔を出すまでが勝負です。さて、開設したばかりの事務所では地中のタケノコと同じようなものですから、ここで一踏ん張りしましょう。そうすれば、後には強固にも柔軟にも対応できる大竹に成長できるでしょう。皆さん、お互いに頑張りましょう。ではまた会えることを楽しみに！！

（昭和五三年卒第八期）

卒業後十八年を迎えて

㈱武智工務所　大杉富美一

私達三期生が卒業した昭和四八年は、オイルショックの一年前に当たり、建設業界は好景気最後の年を向かえていた。私が実社会に出たのはこの二年後で、逆に長い不景気の始まりとなる年であった。幸いにも、自分の希望に合った現在の会社に技術部員とし就職することができた。会社の内容は、コンクリートの特殊な形状をした杭の製造・販売・施工である。一般の建設業と異なり建物完成後は、人目に触れることも無く目立たない専業社ではあるが、控え目な自分にピッタリである。当初の仕事は、自社の製品の性能調査と顧客へのPRが仕事であり、北海道から沖縄までかなり出張を繰り返した。しかし、間接部門にいたせいか今日までの仕事は同窓生と出合う機会は二回しか無く、いずれも関西でのことである。現在は、間接部門の技術者でなく、二度目の東京支店で毎日実務の仕事に、毎日それなりに精一杯頑張っています。これからは、以前より同窓生に出合える機会が増えるのではないかと楽しみにしています。改めて、卒業後の日々を振り返ってみれば、思い起こされる言葉は「光陰矢のごとし」。本当に過ぎし日々は「アッ」と言う間の出来事、仕事に家庭に特に不満も無いのになにか心に生じる焦りは、何か忘れてしまった事があるかも？

（昭和四八年卒第三期）

二十年目の雑感

大阪府建築部　鮫島浩

先日、某氏より、一期生として卒業してからの二十年を振り返ってというタイトルで本稿を依頼された。

二十年といえば、随分長い時間。私の人生でいえば、就職や結婚、家庭生活と最も充実している時期で、実に様々な事柄があった。この二十年を、たった八〇〇字程度でとの依頼であった。二十年を八〇〇字といえば、一年四十字。私の人生をたったこれだけで書けというのは余りに無体な事だと思い、天気の良さに誘われて桜の花見に出かけてしまった。

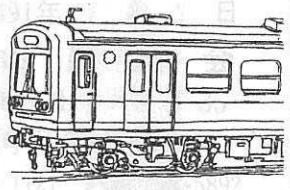
大体人生前ばかりしか見ないといえば聞こえは良いが、振り返る余裕すらない私達にとっては、十年だろうが二十年だろうが、はたまた五十年になろうが振り返ってみても、人様に御被露できる様な振り返り方など、そうザラにできるものではない。

ところが、人生四十才も過ぎると、人様から見ると、もう不惑の年。私ごときにも結構この手の話が舞い込んでくる。「新入生に先輩から一言」だとか「社会人としてのあり方」などといった依頼である。しかもこれらは、白昼堂々と行われる事が多く、シラジラしい顔をしたり、居眠りをしている新入生、昨今の新人類を相手に、真面目にやらされる立場ときたら、辛抱タマランのである。こんな時はきまって、帰り際に一杯となり、例によってハシゴ酒となり、さんざんクダをまいたあと赤い顔して終電に乗り込むと、バッタリ、昼間の新人類とでくわし、「大体君らはなぁー」となるともうおしまい。翌日は会社に出るのがたまらなくツラい。彼らと顔を合わせることを考えるだけでも登校拒否の心境になる。半面教師としての研修なのかと感ぐりたくなる事が時たまある。さて、二十年を振り返る話がまったく違った事になってしまったけれど、又いつか、私が桜井先生の様に、建築学会賞に値するような、素晴らしい賞をとれることが出来た暁にはゆっくりと振り返らせていただくこととし、今回は、この程度でご勘弁願いたい。

（昭和四六年卒第一期）

就職状況

――平成二年度も好調――



院卒生は「荒野を目指す？」

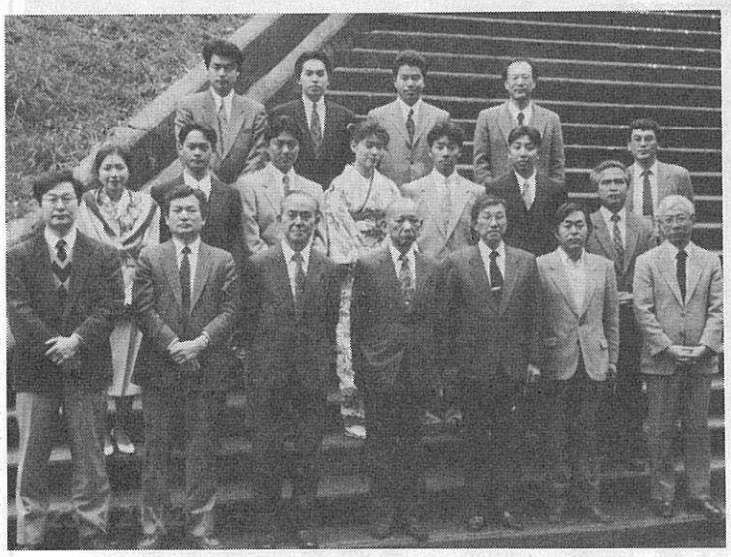
桜の花とともにやってきた新入生たちがようやく落ち着き、キャンパスが新緑に満たされる頃、今度は四年生がそわそわし始める。就職シーズンの到来である。戦後最良と言われてきたここ数年の好景気にもややかげりが見え始めたといわれるが、序盤戦の様子を見るかぎり、今年の企業の求人合戦は昨年をむしろ凌ぐ激しさになるのではないかと思われる。今年の就職担当は八尾教授と川道助教授、そして教室事務の藤野さん、早くも殺到する求人依頼への対応に忙殺されている様子、ご苦労さまです。

建築学科の学部生に対する求人の状況は、昭和六三年度が五、五六九社、平成元年度が六、三六〇社、昨年度は六、六三七社と年々増加してきており、完全な売手市場の状態が続いている。大学院生に対しても同様な傾向が見られ、求人倍率は学部よりも格段に高くなっている。

これらの求人に対して、平成二年度の学部生の就職実績は図に示すように、建設業が50％、不動産・運輸・通信業が10％、設計事務所などの情報・サービス業が7％、公務員が6％、製造業が4％、等となっている。大学院への進学は15％である。3Kなどと悪口をたたかれて学生の建設業離れが取り沙汰される昨今であるが（昨年度の就職担当、荒木教授―と小生―の努力の甲斐あって？）50％の大台を何とか維持している。不動産業等の10％という数字は例年よりもかなり高いが、最近の開発ブームの影響であろう。就職企業の規模別内訳を見ると巨大企業（従業員三、〇〇〇人以上）が51％、大企業（同五〇〇人以上）が29％と、相変わらず安定志向が強い。

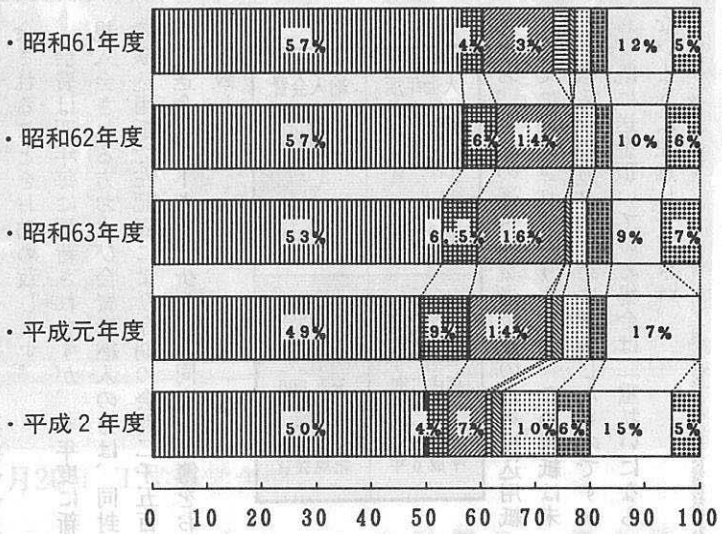
昨年度博士課程が設置された大学院への志望者は年々増加する傾向にある。昨年度の修士課程修了者の就職状況は、情報・サービス業が五名、建設業と不動産・運輸・通信業がそれぞれ二名、公務員と博士課程への進学が各一名となっている。情報・サービス業のほとんどは設計事務所であるが中に広告代理店も含まれる。安定志向というよりもやりがい志向、荒野を目指す型の青年は、院卒生にやや多かったと言うべきか。

助教授　丸茂弘幸



平成３年３月23日

修士課程十一名修了
―年々増加する博士・修士課程進学者―



【建築学科・年度別就職状況】

事業・会計報告

事業報告

（平成二年四月一日以降）

これまでに実施した事業は次の通りである

○ 平成二年四月二九日　千里山建築会総会・懇親会を関西大学百周年記念会館で開催（参加者二三九人）

○ 五月二五日　幹事会開催

○ 七月二七日　幹事会開催

○ 九月一七日　千里山建築会会報第三号を発行、卒業生全員に送付

○ 十一月三十日　幹事会開催

○ 平成三年一月十七日　幹事会開催
　会報・名簿・総務の各部会を設置

○ 三月二十日　学内幹事による卒業生の勧誘（入会者九六名）

○ 三月二二日　幹事会開催

本年度事業計画

本年度の事業計画は次の通りとする

一、会報の発行　年一回発行
　会員相互の情報交換、建築学教室の近況、会計報告等

二、名簿の追補　新卒業生の名簿を会報で追補

三、研究会等の開催準備
　会員相互の親睦と発展を目的とした研究会の開催を来年度に予定、このための計画案作成

会計報告

（平成二年四月一日～平成三年三月三十一日）

(1) 収支決算

収入の部		支出の部	
繰越金	4,290,228	会議費	
同窓会々費	1,589,980	総会	1,874,227
総会々費	1,529,000	幹事会	311,213
広告料	499,382	印刷費	
利息	15,062	総会	165,071
		名簿	1,988,612
		会報	268,718
		通信費	316,913
		アルバイト代	114,500
		雑費	70,100
計	7,923,652	計	5,109,354
		繰越金	2,814,298
合計	7,923,652	合計	7,923,652

(2) 繰越金明細

郵便定額貯金	2,300,000
郵便普通貯金	58,123
大和普通預金	428,683
現金	27,492
計	2,814,298

(3) 会計監査

監査役　中瀬　幹郎（五期）
　　小梶　延一（九期）
　　北野　幹夫（十期）

千里山建築会 入会のお勧め

千里山建築会では、同窓生相互の交流をはかり、同窓生の組織を拡充するために、今回も卒業生全員に会報を送付することになりました。未入会の方々は、この機会に千里山建築会へ入会されることをお勧め致します。

会費は四年毎に更新されますが、本年度に新規入会される方および会費未納入の方は、同封の振込用紙で左記表により今期の会費二千五百円を送金して下さい。折り返し同窓会名簿をお送り致します。

入会年度	納入会費
平成2年	¥3,000
平成3年	¥2,500
平成4年	¥2,000
平成5年	¥1,500
平成6年	新規会費

なお、会報の送付は業者委託のため振込用紙は全てに同封されておりますが、この用紙は未納・未入会の方々のために準備したものですから、既に送金頂いている場合は二重払いにならないように注意して下さい。

編集後記

今回の会報編集に当たり、会員の皆様からの原稿の収集に苦労し、編集委員の怠慢とも相まって、内容が希薄になりましたことをおわび申し上げます。今後は紙面の充実をはかりたいと思っております。また、会員相互の親睦・発展を目指すために、研究会等の開催を予定しております。これらに対するご意見・ご希望がございましたら、当会までお寄せ下さい。皆様のフレッシュな意見を期待しております。